

口腔病理専門医講習会（組織診）

組織標本の所見の捉え方 ―典型像を通して学ぶ―

To describe the histologic findings of oral lesions

嶋 香織 Kaori Shima

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科分子口腔病理学分野

Department of molecular oral pathology and oncology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences

口腔病理専門医の業務の大半を占めるのが、組織診断です。「病理診断は経験学問である。」と言われますが、より多くの標本を観察し、経験を積むことが重要であることは言うまでもありません。しかしながら、現実的には、施設により検体数も異なり、また、病変の偏りもあるのが現状です。さらに、病理組織所見の捉え方から、その所見を言語化して表現（記載）をするに当たっては、取り扱い規約のある悪性腫瘍以外は、言語も含め、各施設、個人により異なっており、一定の様式はあるものの、模範回答はないと言えます。

本セミナーでは、口腔病変の典型像を観察しながら、毎日の業務の中での基本的な所見の捉え方をもう一度振り返り、1枚の標本から何を学ぶか、そして、それをどのように表現すれば、自分自身の経験、知識として蓄積されていくかを一緒に考えてみたいと思います。

Histologic diagnosis is a daily work for the oral pathologists. It is most important to observe more specimens to get skills for the pathologists. However, the number of specimens is different depends on the institutions. In addition, the description of the histologic findings is also different depends on the instructors.

In this seminar, we will review the basic findings in our daily work through observing oral lesions with typical histologic findings and how to describe them to accumulate our own experience and knowledge.

【略歴】

1993年 九州大学歯学部卒業

1993年 九州大学歯学部附属病院第一口腔外科研修医

1996年 九州大学大学院歯学研究院歯学臨床系入学

2000年 同修了、九州大学歯学部附属病院第一口腔外科医員

2001年 東京歯科大学病理学講座助手

2003年 同講師

2008 年 Dana-Farber Cancer institute, Research Fellow

2011 年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科口腔病理解析学（現・分子口腔病理学）分野
助教

2019 年 同准教授

現在に至る。